

【曙保育園】

●2025.1.14 ふりかえり②(先生 2 名、スタッフ2名)

先生①:5 歳児の担任です。

スタッフ①:

よろしくお願いします。では、ラーニングストーリーをもとにお話を勧めさせていただきま
す。遊木の森でのプログラムで行った時に見られたストーリー、子どもたちの主体的な姿、そ
の時の大人のかかわり方などをお話しいただきたいです。あと、普段の姿との違いです。そ
の後、園でどんな変化があったのか、その辺りのお話を聞かせていただければと思います。

先生①:

はい、わかりました。

子どもは、トカゲは普段捕まえることがあるのでわかるんですよね。そこでスタッフさんに
「これはカナヘビだよ」と教えてもらおうと、いろいろなものを捕まえてみては、「あ、これはカ
ナヘビだ」「あ、こっちはトカゲだ」などよく見ていたのがすごく私にとって印象的でした。
面白がって捕まえて終わりではなくて、これはこうだからカナヘビだというのがありました。
子どもたちはポケット図鑑を何冊か持って行ったのですが、ご飯を食べる時などにもう 1 回
見ていたりすると、やっぱりそれは知識だけではなくて、自分たちが知りたい、確かめたい
からできることなんだなということをすごく思いました。もっと知りたい、もっと知りたいと
いう姿が見られたなと思います。

あと、これはすごく印象的だったのですが、ジョロウグモを触らせてもらい「すべすべなん
だよ」「柔らかいんだよ」と教えてもらって、多くの子どもたちが触ることができました。する
と、保育園に帰ってきた後も、なぜだかわかりませんがクモ＝毒グモと言うことが多かった
子どもたちが、園でクモの巣を見つけても違うんですよね。「このクモは」と言ったり、クモの
巣がキラキラしているなど少し見方が変わってきて、違う角度からの見方も出てきたと思い
ました。

これは別件になるかもしれませんが、保護者についてです。毎年、私たちはこの遠足の行
き先の決定が難しく、保護者も自然の体験をさせたい、してほしいという気持ちはあるん
ですよね。私たちのこの秋の遠足は、このところ県大の広場や、まかいの牧場が多かったの
ですが、県大の森でオリエンテーリングやちょっとしたネイチャーゲームなどをやっても、保
護者としては何も遊具がないところだと遊べないというのがあったり、まかいの牧場だと今
度は「汚い」「臭い」などそういう…。

スタッフ①:なるほど。

先生①:

今回、親子遠足ではなくて、大人の方の参加ボランティアとして「一緒にドキドキワクワクしてくれる方を大募集です」と募集したら、なぜか多く集まったんですよ。それで、1つのグループに2人くらいの保護者に入ってもらいました。そうして、大人も何かをしないとダメだと、汚い」「臭い」「触るのが怖い」などではなくて、スタッフの人がリードして「これはね」などと言ってくれて、子どもが「へー」となっているところに大人も一緒になって見たりワーキーしたりすることが楽しかったみたいです。保護者も自然体験をしてほしいという願いは持っています。でも、方法がわからないから、クモにしても何にしても「触っちゃダメ」などという制止が今までは多かったのだと思います。でも、方法がわからないだけだったのかなと思います。今、お母さんたちとよく話すのですが、子どもを見守るようになってきました。ダメではなくて子どもはどうするのかなと思ったり、「あれ、あのクモはもしかしたら触ってもいいのかもしれない」などとお母さんたちのなかで思うことができてきたので、それはすごく良かったと思いました。

あと、実体験の中で、大きな栗の木があったじゃないですか。今まで歌だけで大きな栗の木の下でなどと歌っていましたが、大きな栗とは『大きな栗の木』の下なんだという。

スタッフ①:なるほど。

先生①:

共有する場面もできました。やっぱり自然にはすごい力があるなと、過ぎてみてすごく楽しい経験だったと思います。実際どんな変化があったかというところ、まだまだこんなに変わりましたというところはありませんが、私たちの方でも、この間スタッフさんが教えてくれたから「これは触っていいんだ」。あと、「この赤い実のところは触らないでね」と言うと、「あ、そうなんだ」というのがわかります。わかるとすごく知りたくなります。だから、大人が変わっていくと子どもも変わっていくだろうと思います。この間はそういうきっかけや種をまいていただいたなと思っています。

スタッフ①:

すごくいいお話をたくさんありがとうございます。お話を聞かせていただいて、先生たちにもとてもいい刺激があったのかなと思いました。今、ネイチャーゲームとおっしゃいましたが、そういうものももうご存じなんですかね。

先生①:はい。あそこは浜北のなんでしたっけ。

スタッフ①:ああ、森林公園ですか？

先生①:

そうです。あの辺りに 10 年ちょっとくらい前に続けて行っていたことがありました。森のエビフライや、あと、ゲームとしては、親子で片方が目隠しをして片方が落ち葉の上をこうやって歩いていくと、目を開けて歩くよりも「ここはどんなんだろう」とすごく慎重になって感じ方が違うといったことをやっていました。

スタッフ①: そうなんですか。

スタッフ②: すごいですね。

先生①: 対子どもと保育士だったらいいけれども、そこに保護者が入ってくると、保護者も「自分は何をしたらいいんだろう」と思ってしまうのだろうなと思います。でも、この間は違ったみたいです。

スタッフ②: すごく楽しんでくださっていますね。

先生①: ご飯を食べた後も、1 歳児もトンネルをくるくる回っていましたし、**子どもが楽しんでいるのを見るのが保護者にはすごく楽しかったみたい**です。

スタッフ①: 今回は親御さんはボランティアということでしたが、本来は毎年親子遠足だったんですね。

先生①: このところずっと親子遠足でした。今回、遊木の森さんに行くにあたって、子どもがどう楽しめるか、親が「ちょっとちょっと」などと言っているようでは絶対子どもは楽しくないだろうなと思っていました。予想としては「行きます」という人は、各クラス 5 人ぐらいかなと思ったんですよね。そうしたら、意外に来てくださいました。

先生②: びっくりしました。

先生①: **まずは子どもが楽しめるように**と思って、このような形にしました。

スタッフ②: そこまで考えてくださって…。

スタッフ①: とてもありがたいです。

スタッフ②:ありがとうございます。こちらも、普段は遠足だとおっしゃっていたので大丈夫かなと思っていました。ありがとうございます。

先生②:ただ行って帰ってくるだけではないので、何かを学習してくれればいいな…。

スタッフ①:ありがとうございます。今回のこの遊木の森で受け入れて、先生的にはどうでしたか？

先生②:それこそ先生たちの顔は変わりました。

スタッフ①:体験後ですか？

先生②:行く前と帰ってからとです。ただの邪魔者のゴミが貴重な材料になったりなどです。その後も、先ほど見守ると言いましたが、特に小さい子を先生たちが見守ることが増えたのかなと思います。

スタッフ②:そうですか。

先生②:2歳でも全然問題ないなと思いました。親が忙しいなどよほどの家庭の事情じゃないと、いつも親と一緒にいるのでありがたかったです。

スタッフ①:確かにそうですね。

先生②:しかも、専門家の方がいて、安全が一応保証されています。やっぱり先生たちの方ではケガがあったらどうしようとすごく心配していましたが、いざ行ってみたら、崖ばかりのところに連れていくのはどうかという意見があったりして、それで、下見に行ってくれて。

スタッフ①:本当ですか？

スタッフ②:ありがとうございます。

先生①:数年前に3、4、5歳児だけで行かせてもらいました。先ほどいた2歳と3歳の担任はそれにも一緒に行っていたので、あの二人は遊木の森が楽しいということを知っていましたが、楽しいのはわかっているけれども「え、1歳？」と。

先生②:ですよね。そうしたら1歳でも大丈夫！

スタッフ①:

今、静岡の方にある0～2歳の保育園に私たちが月1回、公園遊びを行っています。たとえばこちらでは、近くの公園に行って、今だったら落ち葉遊びや実で遊んだり、夏だったら水遊びを含めてやったり、季節ごとの遊びをしています。もう5年ぐらいになりますが、すごく変化がありました。そこは園庭がない園ですし、親御さんが忙しくて外遊びをあまりさせてあげられないということが多くて、最初は遊び方を知らなかったんですね。遊具1つとっても遊べない子が多かったそうなのですが、今は本当に、**遊具がある公園に行ってももう遊具では遊びません**。わーと言って**落ち葉やそこに落ちているもの、植物を見つける力がすごくついてきている**と思います。その園が3園ありまして、そうやって1時間ぐらい遊ぶというプログラムを今全部の園で行っているのですが、もし機会があったらそういうこともこちらでできたらなと思っています。

先生②:そうですね。わかりました。おもに公園ですか？

スタッフ①:そうですね。でも、その場に合わせたプログラム作りをしているので、公園だけではなくて園庭でも大丈夫ですし、たとえば畑などどこでもできる形になっています。

先生①:畑はいいですね。畑は園庭の倍ぐらいはあります…。

スタッフ①:畑を持っていच्छやるんですか？

先生②:持っているというか借りています。さつまいもを植えるのですが、ぜひ行って草取りや水かけをしてもらえたらと思います。

先生①:前は草取りをやったり追肥したりしていたのですが、熱中症問題があって。水かけは大人の仕事になってしまったんですね。

スタッフ①:そうですね。

先生②:新型コロナウイルスが流行り、お散歩に行かなくなりました。あと、その前に東日本の地震があって、園が海の方にあるので、どうやって逃げたらいいかという問題があったり。

スタッフ①:そうですね。

先生②:なので、そこでまた少し足が遠のき、この暑さで遠のき、人が少なくなってギリギリで

回っているので先生たちも忙しくなって、ちょっと畑は無理かなあ、という感じです。

スタッフ①:そうでしたか。別の園では、畑でのプログラムも行いました。収穫というよりはその場の植物で遊ぶという感じです。さつまいものツルなどで遊んだり。またご相談いただければいろいろご提案することもできますので、おっしゃってください。

スタッフ②:はい。

スタッフ①:では本日は本当にありがとうございました。

一同:ありがとうございました。